

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	非小細胞肺癌根治切除後の患者における骨格筋量の術前術後の変化と予後への関連を調べる単施設大規模後ろ向きコホート研究
	研究目的	悪液質状態とは進行癌や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などに伴う進行性の体重減少、低栄養、消耗状態で、予後不良とされ、骨格筋の減少進行（Sarcopenia）がその中心現象であります。現在、悪液質の有効な治療法はない状況です。我々は、肺癌の完全切除後で喫煙歴のある患者は肺切除後に悪液質状態が進行し、再発がなくても生命に影響を及ぼす方がいて、悪液質の治療を早期に行うことで、より長生きできる可能性があると考えています。悪液質の指標である骨格筋量は癌の検査で行ったCTから推定できます。その値から、悪液質の進行が推測できるか、悪液質の治療でその値が改善するかなどを評価したいと思います。今回は、当院にて過去肺癌手術を施行した患者様のデータを使わせていただき、術後6か月間におけるCT上の骨格筋減少が術後長期予後を予測するものであることを示したいと思います。さらにそれ以降の骨格筋量の変化を追跡して生存との関連を調べていきたいと思ひます。これまで得られたデータを解析するのみであり、新たに患者様へ負担をかけることはありません。データは匿名化されて、発表にて特定の個人が同定されることはありません。この研究対象となっていると思われる方でこの研究への参加をのぞまれない方は、参加を拒否することができます。病院に連絡を頂きたいと思ひます。
	研究対象者	2007年から2014年に神奈川県立がんセンターにて非小細胞性肺癌に対して肺葉切除以上の手術にて完全切除をできた約1000例
	研究期間	2018年10月26日～2019年6月30日ごろまでを予定しております。
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(画像データ) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	永田 仁
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等 共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	呼吸器外科 放射線診断技術科 放射線診断・IVR科部長 病理診断科 琉球大学大学院医学研究科 臨床研究教育管理学講座 教授 植田 真一郎 統計解析における監修を行うもので、個人が同定される情報に関与することはありません。